

文部科学大臣奨励賞

オタマジャクシとひと夏の仲間たち

香川県 三豊市立上高瀬小学校五年 北野 由佳

五月下旬、私たち五年生は、バケツイネを育てることにしました。

田植えのじゅんぴとして、各自で土の用意をしました。土は、一度ほして殺菌した後、バケツにもどし、水を入れて全体に空気が入るようにまぜました。その後水を入れ、一日おいて次の日に田植えをしました。それからは、時々水やりをするといった作業でした。その間、イネは元氣よく成長していきました。

約一カ月後、不思議なことがおこりました。バケツの中に、生き物がいたのでした。それはカブトエビ、ホウネンエビ、ミジンコなど、私の近くの田んぼでもよく目にする生き物でした。どれもいきおいよくつごいていました。

次の日、イネの成長のため、バケツの水をすてる中ぼしをしました。中ぼしの後は、生き物たちを見ることはありませんでした。

しかし、またびっくりすることがおこったのです。中ぼしをしてから約一カ月。カブトエビ、ホウネンエビにくわえて、なんと二つのバケツに黒くて小さいオタマジャクシが何十匹も育っていたのです。イネは、九十五センチメートルまで元氣に育っていました。私は、オタマジャクシを見るに、夏休みも学校へかよいました。

田植えをした時は、土と水を用意しただけなのに、いくつもの生き物がバケツの中で産まれてきたのが不思議でたまりませんでした。

オタマジャクシは、何日たっても大きくなりませんでした。ある日、「足？」と想ってよく見ると「ふん」でした。ざんねん。オタマジャクシは、足がはえるまでに一カ月ほどかかるそうです。

これから後、オタマジャクシはどうなっていくんだろう。そして、何というかえるに成長するんだろう。秋冬には、どんな生活をしていくんだろう。私たちが遊んでいる横で、バケツイネのかえ

るは、生活するのだろうか。

カブトエビ、ホウネンエビは、大きくなって元氣よく泳ぎしています。これらの生き物のたまごは、どうやってバケツの中に産みつけられたのでしょうか。殺菌のための土ぼしをしても、中ぼしをしても、たまごが死ぬことなく、水をあたえることで活動しはじめた、力強いのちなのです。

いのちというものは、不思議でたくましいものだとおどろきました。また、生きるといふことは、色々な条件に対応できるようにできているんだと感心しました。

そして、一つ楽しみなことがあります。ホウネンエビは、漢字で『豊年エビ』と書くそうです。漢字の通り、このエビがいる年はお米が豊作になるといふ言い伝えがあるそうです。たくさんの実を実らしたほが、十四本も出ていました。夏に出会ったエビやオタマジャクシが、豊作の喜びを運んできてくれたのです。

今、教室の前のだろうかでは、かりとったイネがつるされ、いい香りがただよっています。

